# NPO

# 中帰連平和記念館

CHUKIREN HEIWAKINENKAN

〒 350-1175 埼玉県川越市笠幡 1 9 4 8 - 6 TEL&FAX: 0 4 9 - 2 3 6 - 4 7 1 1 郵便振込:「中帰連・平和記念館」(00150-6-315918)

# 記念館総会のご報告

5月 12 日 (土) 10 時から川越の記念館で「総会」が開かれました。

総会構成は社員(正会員)22名のうち、 出席9名、委任10名、欠席3名、定款の総 会成立用件は「委任含め過半数」で成立しま した。事務局の芹沢の司会で始まり議長(芹 沢)記録(宮本)を選任しました。

最初に、松村高夫理事長と姫田光義館長から下記のご挨拶がありました。

#### 松村高夫理事長挨拶

出来るだけ自由に問題などを提起してもらい、生き生きとした活動をするために、形式的ではなく実質的な総会にしたい。撫順戦犯管理所所長などの来館。悪魔の飽食合唱団」定期公演、原発事故後の福島訪問などで忙しく、この総会のために十分に議論しての提案ではないのですが、大事な記念館を維持発展させるため話し合っていただきたい。6月3日、「ABC企画」で東海原発の見学会が企画されている。

## 姫田光義館長挨拶

撫順戦犯管理所からの訪日団を迎えるにあたって皆さんのご協力に心からのお礼を申し上げます。昨年 12 月 30 日に中国に要請状を出したのですがなかなか承認されず 4 月 23 日にビザが申請され 24 日にビザが下りて、やっと訪日が実現しました。

「館長」は定款にないということで、中帰 連精神を受け継ぎ、発展させていく理事とし て挨拶をしています。

中国大使館にここの資料を送りました 日中関係勉強会」のため大使館から山田朗氏と私が講師として呼ばれ話しをしてきました。「受け継ぐ会」や「記念館」のことを知ってもらいたいと思う。

#### A、報告事項

1.2011 年度経過報告(8頁参照)

会報3号で被災地への本を記念館に送るように友の会会員に呼びかけた。300箱以上送られ約1万冊。中帰連のスタンプを本の中表紙に押す。12月に内容別に仕分けて、ミカン箱に入れ替える。

- ・来館者グループ(JR東労組、多摩9条の会)他
- · 臨時理事会開催 (12/3、3/4)
- ・会報 4 号発行
- 2.会計報告長坂決算会計監査高橋、野村、予算など承認される(8頁参照)
- 3.「定款」の理事定員 10 人から 15 人に変 更、現在 3 人空席。
- 4.土地問題 弁護士を立てて解決。

# 5.「戦犯管理所」所長ら来館

4月25~30日管理所・張継承所長ら5人が来日、25日に成田から記念館に直行、松村理事長、姫田館長、仁木ふみ子前理事長、元中帰連の高橋哲郎さん、稲葉績さん他、関係者約30人と懇談。

#### 6. その他

- ・仁木前館長、理事辞任の件。 昨年11月「辞任届」けを受理した。
- ・『会報』4号を発行(3/14)した。

#### B、検討事項

## 1.被災地宛ての本の件

3 年くらい待ちしばらくはここにおいて 置かざるを得ない。それまでに離島、ベトナム、中国など必要とするところがあれば 被災地に限らず送るのが望ましい。送料は ケースバイケースで検討する。

#### 2 . 会報発行の件

- ・4号は緊急に作成発行した。今後の会報 については凝ったカラーでなくてもいいか ら年4回は出すことに努める。
- ・「記念館」にどういう本が在るか、研究 の連載も載せ、整理状況、日常的な活動な ども『会報』に載せる。
- ・70、80 年代に書かれた中帰連関係の本の書評、理事会や講演会、研究会の報告などを載せる。
- ・ここにしかない資料の紹介は特に意義が ある。
- ・他の平和団体や本を寄贈してくれた人に も会報を送るように努める。
- 3.「中帰連研究会(仮称)」の提案(姫田)
  - ・ここの記念館にしかない資料を使って中 帰連のことを研究し発信する。

呼びかけ人・・・・(松村、姫田) 事務局・・・・(石田、張) 記念館の事業として位置づける。

・硬い学問的な研究というより、普通の人たちにも解るように伝えて共有できるようにしたい(張)。

- ・今年の 12 月に撫順で「中帰連研究会」 が立ち上がるが、それとタイアップして日 本でも研究会を始めてほしいとの張所長の 発言があった(姫田)
- ・巡回展の提案(今井):パネルだけでなく 中帰連のパンフやガイドブックを作るのも 良いのではないか。
- ・「中帰連研究会」の名称を再考してみてはどうか、当面仮称とする。「中帰連平和記念館」内の組織と位置づけで「研究会」の発足を了承。

#### C. その他

- ・今後の理事会(総会を含む)は原則年4回 開き、その日の午後に研究会(講演会・研究 会)を開く。
- ・『青島毛子埠(ちんたおまおずぶ)抗戦記念館』と交流している石郷岡さんから協力、支援要請。
- ・過日、修理依頼してあった元「中帰連」桧山さんの「油絵」を、近々千葉支部の辻さんが引き取る予定。
- ・次回理事会は7月29日(日)10時~12時。午後は「研究会」で石田隆至先生(明治学院大、亜細亜大)の研究発表。

# 張継承所長ら「記念館」訪問

4月 25 日成田空港に到着された「撫順戦犯管理所」の張継承所長、李偉・副所長、夏雅蘭・展示部長、段小傑・遼寧省警官高等専科学校教授、段剛(同)の5人の先生方が、お疲れの処バスで川越の記念館に成田から直行して下さいました。これは直前に予定が3日も短縮されたための強行軍で、記念館には15 時頃到着されました。当初、来日当日の夜に都内で「歓迎会」の予定でしたが、それでは「記念館の滞在時間が余りにも時間がない」と受け継ぐ会本部で考慮して下さり、歓迎会を後日に移し少し時間がとれました。

張所長は初めての来日で先生方5人はお疲



(「記念館」で挨拶する張継承所長)

れの顔も見せずお元気で対応下さり、「記念館に来るのを楽しみにしていました」とご挨拶下さいました。

バスを降りた皆さんには最初に『管理所来日記念植樹』として、記念館で用意したピンクの花が満開の1メートル程の春一番。ツッジとシャクナゲの掛合せ)を記念館前の小さな庭に植樹して戴きました。

記念館では元中帰連事務局長の高橋哲郎さ

んと、さいたま市在住の稲葉績さんの元中帰連のお二人が待機し、松村高夫理事長、姫田光義館長、仁木ふみ子前理事長、成田の出迎えに同行していた橋本さんや、明治学院大学の張宏波先生、石田先生、ジャーナリストの西里さんや「再生の大地合唱団」の大門さんとそのお仲間、松山神奈川支部長や野村埼玉支部長など一般会員含め30人程の皆さんと懇談しました。

張所長が面会を一番特に楽しみにしていた 元中帰連のお二人とは時間をかけてお話しし ていました。また、元中帰連のお二人や記念 館に「水墨画」を戴きました。

大門さんたち「再生の大地合唱団」が今秋 に初公演予定で練習を重ねている組曲『再生 の大地~撫順戦犯管理所』の一部を合唱で紹 介下さいました。

先生方のこの先の旅行の無事を祈り、18 時過ぎ都内のホテルに向かうバスをお見送り 致しました。



# 徐京植さん「講演会」開催

5月 12 日(土)理事会の午後、徐京植さん(作家・東京経済大学教授)を講師に迎え記念館で「フクシマ」をテーマに講演をお願いした。

当日は一般会員の皆さんを含め 30 人余りが参加した。講演の前にNHKの「こころの時代」で放送された徐さん出演の『私にとっての < 3 . 1 1 > 』を事前学習として視た後に徐さんの話をお聴きした。

徐さんは 2000 年東京経済大に採用されたが、当時、反対の声もあったという。51 年に京都で生まれ育ち当時は民主的地域で民主的教育を受けたと感じている。

いま日本は出口の見えない社会に転がり落ちていると感じ、同世代の日本人知識人がどうしてダメなのかと感じる。世論の反対を押し切って原発再稼働しようとしているが反対の力は微弱に感じ、マスコミに警戒心が乏しく権力にすり寄っていることに危機を感じる。

フクシマで何を問われているのか?被爆や 再稼働だけの問題なのか、人間性や文明論に まで飛躍することではないが、少なくても近 代日本国家と日本社会の考えが根底から問わ れていると思う。

日本は広島・長崎の経験があったにも関わらず、なぜこんなに原発支持の意見があるのか、韓国の知人の学者は「ヒロシマ、ナガサキの経験があったから生かされない」と言っている。中曽根さんは「これからは原子力の時代」と確信を持ち、それを手にしたいという考えが芽生え「平和利用」と言う形で維持してきたと私は思う。

日本では平和運動や原水禁運動、反原発運動をしてきたが「自己中心主義」があり、友人の学者はそれを「被爆ナショナリズム」と言っている。米の核の傘に守られながら「平和主義」を唱えて他国に説教している。しかし、今回、平和利用の結果が出てしまった。その「平和利用」の化けの皮がはがれても放棄しようとしないことは、その底(目的)が見えたと思う。石原都知事や石破元防衛大臣

は核武装を肯定しており、そこに原発を放棄しない地金が出ている。原発は核兵器でありその欲望でしか説明出来ず、電源不足だけ問題ではないと思う。韓国では原子力ムラではなく「原子力マフィア」が暗躍している。

ある教師から津波で家ごと流され行方不明になった女生徒が海に放流されながら 15 時間後に助かった話を聞き「良かったですね」と言ったら、教師に「助かる命がどれだけ亡くなったか解っていますか?!」と叱られたと言う。つまり「警戒区域」には救助にも入れず、そこで救助できる人がどれだけ亡くなったかという事である。

今も危険な原発周辺で暮す「郷土愛」を否定しないが、その「思い」を利用する東電や政府は許せない。1年を過ぎても誰も責任を問われず誰も起訴されていない。外国のメディアがこの混乱の中でも日本人は「秩序を分の生き死に至っても会社や国家に委ねているからだと私は思う。電車が動かなくても会社に行くことは外国から見たら非常に奇怪なことで、それを日本人は肯定してると思う。それは会社や国に絡め取られているからだ。

国難と言われる時に問題になるのが他者と 皇室であろう。中国人や在日が他者にされや すく、今回は関東大震災の様なことは無かっ たようだが心配だった。「第三国人が何をす るか心配だから自衛隊に治安維持出動を」と 言う石原都知事のような存在は原子炉に空い た穴の様に私たちには恐ろしいと感じる。

郡山の朝鮮学校が原発で閉鎖され新潟で勉強している。原因は財政困難とコミュニティ



ーがつぶされたことだが、その人たちにインタビューを断られた。親の国籍が違うだけで生きにくい国であり、広島、長崎、福島の被爆差別と在日の差別はつながっていると思う。

「災害は平等」という言い方があるが違うと思う。多数者が繊細な想像力を働かせなければ捉えることができず、また少数者は勇気を持って訴えなくてはならないと思う。

米軍の「友達作戦」や自衛隊出動が評価されたが自衛隊を「災害救助隊」にはせず、自民党は「国軍」にすると言っている。東アで連帯が必要なのは韓国も原発を廃止立ることであり、日本を抜いて原発の先頭に立立と言う考えは間違っても超えることを超見が国家からどの日本は戦後それが高いた。独立できるかが問われ、日間に出るか、国家を媒体して相手を見て「日本にとは連帯できない等と話を結んだ。

その後、質疑応答や意見交流を含め3時間 余りの講演を終了した。

(「福島」関連の発言要旨。事務局・芹沢)

#### 連載 記念館資料室から

第1回 戦犯の「手記」は今?

NPO 中帰連平和記念館には、他にはない大変貴重な史料として、撫順・太原の戦犯管理所で元戦犯たちが記した手記の原本が多数保存されています。1956 年に日本の出版社が中国側から入手し、中帰連が保管してきたものです。今回から、その御紹介と簡単な解説を連載する機会を設けて頂きました。

戦犯たちが書いた手記がどれくらいあるのか、延べ何人が書いたのか、実は正確な数はまだ掴めていません。1989年に放映されたNHKスペシャル「"戦犯"たちの告白~撫順・太原戦犯管理所1062人の手記~」の冒頭には手記を積み重ねた映像が出てきます。高さ30センチ近くもある山が二つになって

いました。ざっと確認した範囲ですが、5000 枚は越えるのではないでしょうか。

手記は 1955 年前後に書かれたもので、既に 60 年近くの時間が経っています。薄く質素な紙に書かれているものが多いため、破損し始めています(写真 1)。現在、記念館事務局の芹沢昇雄さんが運営作業の合間を縫って、そのデジタル化作業に取り組んで下さっています。

一部の手記は、『三光』『侵略』『天皇の軍隊〈中国侵略〉』などの中帰連関連書籍で読むことができます(記念館に所蔵されています》。しかし、活字化されたものはごく一部です。また、どんな紙に、どんな文字で、どんな書き方をしているのかを直接見て頂ければ、戦犯たちの「息づかい」に触れることができます。

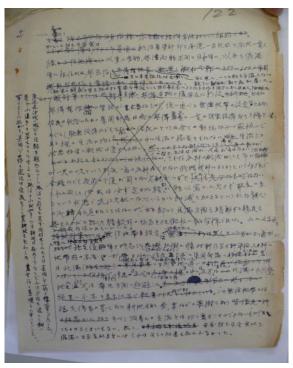
たとえば清書された手記だけでなく。下書き」に当たるものもあります。訂正線が入っていたり、大きく「バツ印」が付けられていたり、誰かのコメントが入っているケースもあります(写真 2)。決して投げやりに書かれたものでもなければ、「洗脳」されてスラスラ書いたものでもないことがよく分かります。

非常に整った文字で書かれた手記もあれば、心の揺れを表すかのような荒れた文字で書き殴られているものもあります。文体の面でも、理路整然と自分の犯罪行為やその反省を綴ったものもあれば、気持ちの整理が付いていないと思わせる自分本位の手記もあります。

内容面では、自己の罪行をもとにした手記 がやはり多く、「人間の丸焼き」など読むに



(写真1)



(写真2)

堪えない残虐な戦争犯罪が記されたものも少なくありません。警察や憲兵、官吏だった人物の手記からは、権力の狡猾さとインチキさが今も変わらないことが伝わってきます。その他、日本にいる家族への手紙、中国各地への参観旅行の感想や、起訴免除で釈放になった際の心境を綴った手記のほか、詩や脚本まで見られます。個々人が綴ったものが大半ですが、「集体創作」といったグループ作品もあります。

帰国後に中帰連で活躍した方々の手記も多数あります。彼らの「原点」にあたる手記を読むことで、帰国後の活動の意義をより深く理解できるようになるでしょう。また、数は多くないものの、帰国後に管理所での経験を否定した戦犯の手記もありますから、比較してみると興味深いでしょう。

最後に"夢"について書くことをお許し下さい。記念館にはこの手記の他に、中帰連の方々に関するビデオテープやカセットテープ、管理所での写真なども保存されています。それぞれのデジタル化作業が進めば、将来的にデータベースを構築し、どの人がどんな手記を書き、帰国後はどんな活動をしたのか、どんな関連文献があるのかなどが検索できるようになればと考えています。それは、中帰

連の経験から、現在の政治・社会状況に向き合うための「知恵」や「手がかり」を提供してくれるでしょう。

次回から具体的に史料を御紹介しながら、 それが現在にどんなメッセージを発している のか、ご一緒に考えていければと思います。

石田隆至(大学教員・平和学)

# シリーズ 図書資料から(1)

記念館が開館してから6年たちました。その間に中帰連に関係ある研究書、論文、手記、他の平和活動団体からの会報などが寄せられています。"季刊戦争責任研究"や明治学院大学国際平和研究所の"プライム"には石田・張さんの論文が掲載されています。この記念館の会報にお二人が連載の記事を書いてくださるそうです。ここではそれ以外の本をお知らせします。

ご高齢になられた中帰連の方々の書かれた本がつい最近立て続けに発刊されました。

<sup>\*</sup>終わりなき闘い - 山西省に残留させられた 兵士たち』稲葉 績(埼玉支部)2012.5 <sup>\*</sup>激動の昭和を生きて私の自分史』

中村賢一(千葉支部)2012.4

·自分史 私と戦争と - 大正・昭和・平成を

生きて - 』 鹿田正夫(山陰中帰連)2011.3 <sup>\*</sup>皇軍兵士の4年~カント学徒戦犯に堕つ~』

絵鳩 毅(神奈川支部)2011.9

·シベリア抑留の5年~強制労働、慢性飢餓、

極寒、人間不信の世界~』

絵鳩 毅(神奈川支部)2110.11

<sub>"</sub>撫順戦犯管理所の6年-監獄が自己改造の 学校だった-』**絵鳩毅**(神奈川支部)2010.3

上記の本は「撫順の奇蹟を受け継ぐ会」各 支部の大きな活動の成果です。入手されたい 方は「記念館」にご連絡戴ければ、支部に連 絡させて頂きます。

東京支部、北海道支部からも中帰連の方々からの聞き取りの本がだされています。また出版社から発刊されたものもあります。次回から少しずつ紹介させていただきます。お楽しみに。 (司書:宮本)

# 記念館の映像資料から()

『戦犯たちの告白』 (NHKスペシャル 「終戦特番」1989.8.15 45分)

今から 22 年前のまだ中帰連の皆さんが 60 代半ばの頃に「NHKスペシャル」で放送された番組です。2000 年の『女性国際戦犯法廷』で金子安次さんと鈴木良雄さんの「加害証言」をカットした今のNHKでは放送が困難な内容と思います。

この番組は中帰連の皆さんが当時の管理所で自らの加害・罪業を記した「手記」を記者が持参し、当事者を訪ね感想や思いを聴いた番組で、既に鬼籍に入った人も多く出演しています。

「オッ母アの様な腰の曲がった人を俺は剣 で突き刺した」(丸谷忠三さん)、「私が処刑 されても私の手によって殺された多くの中国 人は帰ってこない、私は殺されても仕方ない と思った」(溝呂木清さん)、「中国人を刺し 殺す時は足がガタガタ震えた」(三木栄一さ ん)、「私には懸賞金が付いていたでしょう」 (小島隆男さん)、「あんな乳飲み児まで殺さ なくてはならなかったのかな~・・・・ 小 沢又蔵さん)、「判決で禁固 13 年と言われた 時は助かった!と思い気を失いそうになり、 信じられなかった」(鵜野晋太郎さん)、「う ん、これだ、まだまだひどいんだよやったこ とは、ここには出ていないけど」(三浦唯守 さん〉、「私はお母さんの様な婦人を殺し、も っと多くの物を盗り多くの家を焼き人を殺 し、その褒美に伍長になりました。しかし、 こんな事は母にも話していない・・・」(清 木良美さん〉、三浦重光さんは戦争に関する 物は全て焼き捨て、「今考えればなぜ?と思 うが、当時は自分自身の名誉と出世のためだ った」と語り、永富博道さんは病院のベッド で「日本は空襲や広島、長崎の被害は訴える が、私たちが中国や朝鮮、ベトナムやフィリ ッピンで何をやったか口をつぐみ誰も語らな い。それでは罪の精算ができないなどと 10 数名の元中帰連が証言している。

(事務局:芹沢)

#### 被災地向けの本の現状について

被災地向けに皆様にお送り戴いた本について、東松島の教育委員会を訪ねたことは前号でご報告しました。その後、岩手県から紹介された陸前高田市立図書館にも問合わせましたが、8万冊の本が流されてしまい本欲しいのですが、その場所がなくその本を「陸前高田ゆめプロジェクト」にお願いできればとの事でした。このシステムは集まった本を売ってその資金を図書館建設費用にあてるというものです。

他にも福島県南相馬市の大甕小学校、原町第三小学校などに5箱(約200冊)程度ずつ送り更に検討中ですがお気づきの送付先」があればご連絡戴ければと思います。

現在「学齢前絵本」、小学生中学以上、辞書」に仕分けし、更に、送付先を探しております。



## (受け入れ先を待つ、善意の本の一部)

第1回記念館『学習・講演会』のご案内 日時 7月29日(日)13:30 ~ 16:00

場所: 中帰連平和記念館」

講師:石田隆至先生亜細亜大明治学院大)

テーマ:

『中帰連平和記念館の史料が語りかけるもの』

会費・カンパの振り込みについて!

「振込用紙」を使わずご自分の「口座の通 帳やカード」**からも直接振込むできます**。

口座名: < 中帰連 > 平和記念館

○一九(ゼロイチキュ)店(019)

当座:(0315918)

「会費未納」の方、及び「カンパ」宜しく お願い致します。 会計担当 長坂光行

平成23年度特定非営利活動に係わる事業会計収支計算書 平成23年4月1日から平成24年3月31日まで

次期繰越坝支姜額	当期収支差額	当期支出合計	뿌	HY		3 借入金返済			2 立替金	<b>維</b> 黄	祖祝公誄	可書期刊	<b>賃借料</b>	<b>派質交通質</b>	<b>会議質</b>	光烈水道料	印刷製本費	消耗什器備品費	通信費	事務用品費	修繕費	1 事業費	Ⅱ 支出の部	収入合計	前期繰越収支差額	当期収入合計	6 雑収入	5 預かり金	4 立替金戻入	3 借入金収入	2 寄付金	1 会員年会費	I 収入の部	科目
				0	1,000,000		0	1,075,000		158,560	//,100	480,000	11,340	93,385	4,535	87,567	63,540	16,520	294,241	193,007	0	1.					75,143	0	1,075,000	1,000,000	702,000	900,000		
			1,000,000				1,075,000			1,479,795															1,603,777	3,752,143								金 額
1,801,125	197,348	3,554,795																						5,355,920										

2011年度 決算書類に係わる会計監査報告書

当監事は2011年度(2011年4月1日から2012年3月31日)決算書類について、下記 方法で監査を実施しましたので報告いたします。

記

- 1・ 決算書類と、帳簿、証憑書類との整合性
- 2. 郵便振替口座残高、並びに通常郵便貯金残高、及び現金等についての確認
- 3. 決算報告書の内容
- 4. 理事会等記念館運営状況

上記、監査の結果、正しく処理されていることを認めます。

2012年 4月25日

特定非営利活動法人 中帰連平和記念館 監事 高橋哲郎

監事 野村真己

以 上